



さいとう あおい
齋藤 碧 議員(八雲高校1年)

幅広い世代で参加できるイベントを増やせませんか

広い世代が楽しんで参加できるイベントが少ないと感じています。小規模でもたくさんの人々がふれあう場ができるだけで、まちは豊かになると考えます。先日、はぴあ八雲と「ら・ふも」で行われたハロウィンなど、そういったイベントが増えると他の地域の人の目にも止まり、八雲町の魅力を知ってもらうきっかけになると思います。

答弁)町長

町では、まちの賑わいを生み出すことは重要なことと考えおり、特に、このまちの将来を担う皆さんが参加することが大切だと考えています。「ら・ふも」の運営やまちの賑わいは4人の地域おこし協力隊が担当しており、まちの皆さんの声を聞きながら、町の活性化のために努力していただいています。今後は、産業の活性化についても、役場や関係団体と連携して取り組んでいただくつもりです。町では、毎年多くのイベントや祭りが行われています。例えば、初夏には八雲山車行列、冬には八雲さむいべや祭りなど、子どもから大人まで誰もが参加できる行事です。各イベントや祭りに参加している人が参加して良かった、楽しかったと思えることが一番大事であり、そこで楽しむ姿や笑顔が八雲町の魅力となって、町外の人が行ってみたい、参加してみたいという思いにつながり、実際に足を運んでもらえるのではないのでしょうか。そのためには、今あるイベントや祭りにもぜひ、高校生の皆さんも積極的に参加していただき、あるいは企画段階から関わって多くの世代が参加でき、楽しむためのアイデアをどんどん提案してください。八雲町の活性化は、若い皆さんの力が重要ですので、ぜひ、一緒に行動しましょう。



たておか たいせい
館岡 泰星 議員(八雲高校1年)

高齢者が住みよいまちづくり～町内におけるバス運行について～

少子高齢化が進み、八雲町も高齢者の割合が高くなっていると思います。そこで、高齢者のためにも町内のあらゆる箇所をバスがあれば買い物などの外出ができ、便利になると考えます。例えば市街地と観光名所であるパノラマパークを繋ぐパイプラインにもなります。また、寒い冬や悪天候の時などの心強い移動手段となることも期待できます。町内のみを走る公共交通機関を設置できないでしょうか。

答弁)町長

八雲町における65歳以上の老年人口の割合は、平成27年に行った国勢調査によると、八雲町全体では31%で、地域別では、八雲地域が28%、熊石地域が47%となっていて、今後もその割合は高くなるものと予想されます。

今まで車を運転できた方が高齢になり運転できなくなるなどにより、買い物や病院へ通院することが困難になるといった高齢者の移動手段を確保することは非常に重要な課題です。

現在八雲町においては、公共交通手段のない上八雲地区と上の湯地区の方に、スクールバスへの乗車によるサービスや、所得の制限はありますが、80歳以上の高齢者や障がいのある方への福祉タクシー助成を行って利便性の向上に繋げているほか、民間では、買い物をしたお店での配達や、移動販売車での販売がされています。また、近所の方の自家用車に乗せて行ってもらったり、買い物を頼んだり地域での相互協力も大きいものと考えます。

八雲町内でのバス運行は、過去に市街地と栄浜、黒岩間で巡回バスによる試験運行をしましたが、利用される方が少なく実施にはなりません。また、八雲町は面積が広く、町内をカバーできるバス運行に必要な費用と利用者数との費用対効果や既存のバス事業者との競合の問題があり、すぐに実現は難しい状況です。しかし、今後は人口減少と高齢化が進む中であって、八雲町内における高齢者の移動手段をどのように確保していくのが望ましいのか、コミュニティバスや乗り合いタクシーなどの運行形態があることから、行政、住民、事業者が協働し、役割分担して導入した先進自治体の事例を参考にしながら、調査、研究をしてまいりたいと考えています。

再質問)館岡

八雲町内での公共バス以外のサービスについて分かりました。ここでひとつ提案があります。東京都や函館での市街地の道路では、自転車の道路が設けてあり、この道路のおかげで交通事故防止や移動手段のスムーズ化となっています。八雲町でもこのような自転車のスペースを設けて、多くの人がスムーズに道路を安全に渡れるようにしていただければより良い生活ができると思います。このことを提案します。

再答弁)町長

自転車の道路ということでもとても良い意見だと思います。まちの中でも自転車専用の道路があったり、高校までの道路の通学路などでも良い意見だと思います。しかし、東京都と違うのは、北海道は冬は雪も降りますし、費用などを踏まえ、我々も慎重に考えながら協議してまいりたいと思います。よろしくお願ひしいと思います。